

「鬼怒川の外来種対策を考える懇談会」を中心とした地域連携方策について

Policy for regional alliance focusing on “Actions on Invasive Alien Species in the Kinu River Conference”

河川・海岸グループ 技術参与 清水 俊夫
 生態系グループ 技術参与 前村 良雄
 生態系グループ 研究員 宇根 大介

1. はじめに

かつての鬼怒川は、河道内を流れが乱流し、礫河原環境が形成されていた。しかしながら、近年は滞筋が固定化され比高差が拡大したため、シナダレスズメガヤ等の外来種が侵入し鬼怒川が本来有していた礫河原が失われつつある。

このため、礫河原固有生物の生息・生育に適した環境の再生を目的とした礫河原再生事業が進められている。また同時に、地元市民団体を中心に、カワラノギク等の礫河原固有植物の保全を目的としたシナダレスズメガヤ等の外来植物除去活動の取り組みが活発に進められてきたものの、その取り組み範囲は限定的であった。



写真-1 シナダレスズメガヤ(左)とカワラノギク(右)

このような背景から、外来種除去と礫河原固有種の保全をより広域的、かつ効果的・効率的に実施するため、地域連携方策として「鬼怒川の外来種対策を考える懇談会」が設立された。

本報告は、平成22年3月以降、平成26年2月の第7回まで、年1~2回のペースで開催されてきた「鬼怒川の外来種対策を考える懇談会」(以下「懇談会」という)を中心とした地域連携方策についてとりまとめたものである。



写真-2 シナダレスズメガヤ除去作業

2. 外来種対策の取り組み区間

鬼怒川における外来種対策の取り組み区間は、鬼怒川中流部83.0k~101.5kである。



図-1 外来種対策の取り組み区間位置図

3. 地域連携による外来種対策の必要性

鬼怒川の礫河原再生に関しては、学識経験者、地元市民団体、関係行政機関で構成する鬼怒川河道再生検討委員会で平成22年3月に「鬼怒川中流部礫河原再生計画(案)」がまとめられた。当該計画に基づいて、砂州を切り下げ、大礫堆を復元することにより砂州を複列化させ礫河原を再生する事業が進められており、試験施工のモニタリング調査結果から、大礫堆の設置や砂州の切り下げ等により複列砂州が形成・維持されることが確認された。

一方で、シナダレスズメガヤが再繁茂してしまう可能性が高いことも示唆されたため、礫河原固有種の生息・生育に適した環境を長期的に維持していくためには、施工後にシナダレスズメガヤが再繁茂しないための対策が必要と考えられた。

こうした観点から、礫河原再生の取り組みの一環として、地域住民や関係団体、学識者、関係行政機関との連携・協働による維持管理を推進していく枠組作りが重要である。地域住民・市民団体・学識経験者・行政等が連携した体制づくりを行い、さらなる理解を深め、連携強化を図っていく必要がある。

4. 外来種対策の取り組みと懇談会の運営

鬼怒川中流部は、「うじいえ自然に親しむ会」や「押上水神会」等の市民団体が中心となって積極的にシナ

ダレスズメガヤの駆除やカワラノギクの保全活動が行われてきた地域である。

こうした活動経過を踏まえて、平成21年度に、市民団体、地元自治体、学識経験者、河川管理者等の関係者が連携し、情報共有によってより効果的に今後の鬼怒川における環境保全活動の促進を図るため、意見交換を行い、役割分担、広報等についてとりまとめ、実践することを目的として懇談会が設立された。

さらに、下館河川事務所は沿川(全体)の市民団体や自治体に対し、鬼怒川本来の礫河原固有生物の重要性や外来種対策の必要性等について説明を行い、懇談会へ参加の働きかけを行った結果、平成24年度に他流域の自治体や市民団体も加わったことで26団体に拡大し、活動ネットワークが広域化・深化した。

表-2 (2) 懇談会の開催日時・主な議題

開催日時・主な議題	
第4回	平成23年11月17日(木)15:00~17:00(さくら市氏家公民館) ・具体的な地域と連携した外来種対策の実施方策の実効性確認 ・意見交換：地域との連携による外来種対策の促進について(組織体制と役割分担、広報方策と情報の共有化等)
第5回	平成24年2月22日(水)14:00~16:00(さくら市氏家公民館) ・鬼怒川における環境保全活動の紹介 ・意見交換：地域との連携による外来種対策の促進について(組織体制と役割分担、広報方策と情報の共有化等) ・今後の鬼怒川中流部における外来種対策
第6回	平成25年2月7日(木)14:00~16:00(さくら市喜連川公民館) ・鬼怒川における環境保全活動の紹介 ・意見交換：環境保全活動に関する疑問や悩み
第7回	平成26年2月6日(木)14:00~16:00(さくら市氏家公民館) ・鬼怒川における環境保全活動の紹介 ・意見交換：環境保全活動に関する疑問や悩み

表-1 鬼怒川の外来種対策を考える懇談会メンバー

分類	団体	H21年度		H22年度		H23年度		H24年度		H25年度	
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	
市民団体	ついで自然に親しむ会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	さくら市カールスカフト第20回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	埼玉水産会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	とちぎMPGパイロットクラブ会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	宇都宮シルビアンジミを守る会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平石ワラノギを守る会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	今市の自然を知る会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	氏家ロータリークラブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	たかはらさくら青年会事務所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大久保まちづくり推進委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オキナグサを守る会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
教育機関	栃木県立 宇都宮白根高等学校			○	○	○	○	○	○	○	○
	さくら清修高等学校			○	○	○	○	○	○	○	
	さくら市立 柳上小学校			○	○	○	○	○	○	○	
学識経験者・専門家	東京大学大学院 農学生命科学研究科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本野鳥の会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自治体	栃木県 県土整備部河川課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	環境森林部自然環境課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	さくら市 市民福祉部環境課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	建設部都市整備課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学校教育課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	宇都宮市 環境保全課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	河川課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高根沢町 環境課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	塩谷町 産業振興課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日光市 環境課	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
河川管理者	下館河川事務所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
日光砂防事務所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
参加団体数		8	9	15	23	25	26	26			

5. 懇談会の開催経緯

懇談会は、平成21年度以降、毎年開催され、毎回、出席者全員が環境保全活動の報告を行い情報の共有を図ると共に、活動に関する疑問や悩みについて意見交換を行っている。

本研究では、懇談会の設立趣旨を踏まえ、地域住民等が過度な負担なく活動を継続していくために参加者の要望を踏まえた役割分担のあり方や情報共有の仕組み等についてとりまとめを行うと共に、その成果をパンフレットの作成や分かりやすい地域活動のカレンダーの作成等に繋げてきた。

表-2 (1) 懇談会の開催日時・主な議題

開催日時・主な議題	
第1回	平成22年3月8日(月)15:00~17:00(さくら市氏家公民館) ・鬼怒川の礫河原再生に関する取り組みの概要 ・市民等による河川環境保全活動の実施状況 ・地域との連携による外来種対策促進についての意見交換(活動上の課題・問題点、行政への要望、他河川事例等)
第2回	平成22年12月10日(金)15:00~17:00(さくら市第二庁舎) ・鬼怒川における市民等による河川環境保全活動の紹介 ・事務局より情報提供 ・地域との連携による外来種対策促進についての意見交換(持続可能な組織・体制づくり、情報共有の仕組み)
第3回	平成23年3月4日(金)15:00~17:00(さくら市氏家公民館) ・地域との連携による外来種対策の促進について ・今後の具体的な取り組み方策案(外来植物対策の実施方策、パンフレット等の広報方策)

平成26年2月6日に開催された平成25年度の第7回懇談会では、今後の地域連携方策としてシルビアンジミやオキナグサ等の貴重な動植物の密猟対策、及び普及啓発のためのホームページ運営の必要性について確認された。



写真-3 第7回懇談会の様子

表-3 第7回懇談会での意見と対応(案)

意見	対応(案)
シルビアンジミやオキナグサ等の密猟対策	・注意喚起のための看板設置 ・密猟者発見時の手続を示すパンフレットの作成
効果的な広報	・下館河川事務所のホームページはよくまとまっていて分かりやすい。各団体の活動予定等の情報発信を行う等、積極的に活用すべき。 ・既存のパンフレットを最新の情報を用いて内容を更新する

6. おわりに

鬼怒川の外来種対策は、地元市民団体等の主体的活動となって定着しているが、今後も懇談会等における関係者間の情報共有や意見交換を通じて、国、関係者が連携・サポートできる組織体制の充実が重要と考える。同時に、活動を継続していくための方策として、活動の「楽しみ」や「やりがい」をいかにして提供できるか、懇談会を活用して具体化していく必要があると考える。

<参考文献>

- 1) 宇根大介, 前村良雄, 千葉潤一, 阿部充, 都築隆禎, 伊藤将文: 地域と連携した鬼怒川中流部の外来植物対策について(第2報)「リバーフロント研究所報告」第23号
- 2) 下館河川事務所: 鬼怒川中流部礫河原再生計画(案)(2010)